

中国農村地域における高齢者福祉施設の 利用率が低い要因に関する分析

——湖南省の A 鎮を事例として——

YI WANXIAN

1 研究背景

高齢化が急速に進んでいる中国では、社会福祉の整備が喫緊な課題となり、高齢者福祉への関心が高まっている。中国政府は深刻な高齢化問題に直面し、高齢者事業基礎施設の建設に積極的に取り組んでいる。『2020 年民政事業発展公報』によると、2020 年末には、全国に各類型の高齢者施設は 32.9 万ヶ所、ベッド数は 821 万床ある。そのなかで、入所型高齢者福祉施設数は 3.8 万ヶ所、ベッド数は 488.2 万床である。

高齢者福祉施設数とベッド数はともに年々増えているが、現時点でのベッドの設置率は高齢者数の僅か 2 割ほどであり、施設サービスの供給が明らかに量的に不足し、高齢者の養老にニーズを満たさない。しかしながら、施設の平均入居率は半分に留まっている(表 1)。高齢者福祉施設では、需給のアンバランスが生じており、施設が十分に利用されていないという課題がある。これ以上ベッドの増設を続け、量的に充実しても、利用者の急増が見込めない限り、ただの社会公共資源の浪費である。現時点では、福祉施設の量的整備より、施設の利用率が低い要因を究明することが必要性の高い課題となる。

表 1

	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年
高齢化率(%)	16.7	17.3	17.9	18.1	18.7
ベッド数(万床)	378.8	383.5	379.4	438.8	488.2
入居者数(万人)	219.8	211.1	197.6	217.5	222.3
入居率(%)	58	55	52	49.5	45.5

出所) 2017~2021 年版『中国民政統計年鑑』各年のデータを参考に筆者作成

2 研究目的および方法

本研究では中国農村部における高齢者福祉施設の利用率が低い要因を明らかにすることを目的とする。まず、中国における高齢化問題、高齢者福祉施設の現状と課題を整理するために、先行研究の検討を行う。そして先行研究が示唆する点や限界点を踏まえつつ、本研究では「施設」と「高齢者」の双方を切り口とし、施設の現況と高齢者の実状を合わせて比較しながら要因の分析を試みる。事例調査の方法としては、高齢化が著しく、中国国内での高齢化を代表する省である湖南省の A 鎮の事例を取り上げ、A 鎮における公設公営と民設民営の高齢者福祉施設を対象として、まず 2021 年 5 月に訪問調査を行い、そこでの現状と諸問題を考察した。また、A 鎮在住の高齢者に他記式個別面接法でアンケートを実施するなかで、A 鎮在住の高齢者を「自立高齢者」、「(要介護) 貧困層高齢

者」、「(要介護)中高層高齢者」に分け、それぞれの実情を検討しながら要因を分析した。

3 要因解析

◆ 先行研究の示唆(都市部と農村部共通)

①従来の高齢者施設は「三無(法定扶養義務者がいない、労働力がない、収入がない)老人」と「五保(食事、衣服、住宅、医療、葬儀への保障)老人」を対象者とし、つまり「扶養者がいないもの」あるいは「貧乏なもの」という特定の対象者に限定している。社会的偏見が強く根付いており、スティグマが付きまとっている。

②施設の料金が高齢者の負担能力を超えている。中国では、介護保険制度が未だに全国民に普及されないため、施設サービスを利用したい一般高齢者は全額自費で払わざるを得ず、費用が高くて入居できない状態となる。

③施設のハード面とソフト面の整備が不足し、サービスの質が低いので、高齢者にとって魅力的とは言えない。

④高齢者福祉施設体系を構築する際に、中央政府はただ統一した指標や命令を指示するだけである。地方政府は盲目的・随意的に実行し、明確な理論指導がなく、科学的な方法もない。

◆ 本研究の結論(農村部の考察)

■ 施設面

A 鎮における施設サービスは整備されていたにも関わらず、施設種類が単一で、高齢者の多様な養老ニーズに応えにくく、高齢者の特性を無視する傾向がある。そして、考察した A 鎮の 2 施設は、サービス内容が単一で、職員がほとんど「養老護理員」の資格を持たずに高齢者に介護サービスを提供するため、サービスの質も低いリスクが潜んでいる。さらに、高齢者の排除などの問題も存在する。

■ 高齢者面

「自立高齢者」においては、介護のニーズが高くないために、施設入所の契機が欠如しているとともに、在宅で自分自身や配偶者、子どもによる世話のみで満足できているために、あえて施設に入所する必要がないという状況であった。

「(要介護)貧困層高齢者」においては、介護のニーズがありながらも、施設の料金が高齢者の現実的な収入と心理的予算を超えているために、経済的な理由によって施設に入所するに至っていない。

さらに、多くの農村部の高齢者福祉施設では、高齢者の日常生活に満足できる基本設備が揃っているものの、職員の専門性が低いために、サービスの質が保証できないという状況にある。そして、経済的に余裕がある農村部の高齢者は、サービスの質を追求し、実家以外の福祉施設を選択する傾向があると考えられる。